

伊達な
国際交流員の
つれづれコラム
vol.93



「アメリカのクリスマス料理」

Christmas Food in America

英訳版を
見る▶



クリスマスが近づいてくると多くの人が楽しみにしているのは食べ物です。クリスマスの時期になるとよく日本とアメリカの祝い方の違いを話します。そこでアメリカ人がクリスマスに食べている料理にびっくりする日本人は多いです。日本ではフライドチキンを食べる習慣がありますが、一般的にアメリカ人はクリスマスにチキンは食べません。それに、ほとんどのお店がクリスマス当日は閉まっているため、チキンを食べるとしたら、

自分で料理をします。

では、アメリカ人は何を食べるかというと、シチメンチヨウかハムを食べるのが一般的です。シチメンチヨウとともに食べるのはスタッフィングという肉の中に別の食材を詰めた料理です。通常はパン粉、玉ねぎ、セロリ、スパイス、ハーブなどを詰めて焼きます。

もう一つの一般的な食べ物、マッシュポテトとグレービーソースです。グレービーソースは、ローストビーフのうな肉の煮汁を使って作られるものでデミグラスに似ているものです。

これらはクリスマスに人気のある食べ物のほんの一部なので、食べてみたいクリスマス料理を探して作ってみてください！（キャメロン）

地域の魅力
ふる里再発見

館藩の蚕種売買許可証

令和6年度第2回企画展

～姉妹都市協定締結40周年記念～

令和7年1月27日(月)まで
伊達市保原歴史文化資料館

明治2年（1869）6月、松前藩主松前脩広は領地と領民を返上しました（版籍奉還）。これ以降、松前藩は館藩と呼ばれるようになります。明治3年9月の山形県設置により、館藩の村山郡東根は山形県に編入されました。替地は伊達郡内34カ村、三万石余です。伏黒村もその一村でした。当館の松岡家文書は伊達郡伏黒村の名主を勤めた家の古文書です。同文書には、館藩が発行した蚕種売買許可証が残っています。

蚕種売買許可証の表には、朱印「員数改印」と黒印「蚕種売買免許之印」が押印されています。さらに、「本郡三枚」「海外輸出」と墨書されています。裏の朱印は館藩の藩庁印「館藩」です。墨書は「辛未八月四日」、「製造人岩代国伊達郡伏黒村彦右衛門」とあります。干支の「辛未」は明治4年です。以上から、明治4年8月4日、館藩は伏

黒村の蚕種製造人彦右衛門に蚕種紙三枚の海外輸出を許可したことが判ります。伊達市一帯は、江戸時代から蚕種（蚕の卵）製造が盛んな地域でした。安政6年（1859）6月の横浜開港以降、伊達郡の蚕種紙（蚕の卵を産み付けた厚手の和紙）は、海外市場へ大量に輸出されました。幕末から明治初年にかけて、蚕の伝染病が蔓延し、ヨーロッパの養蚕業は壊滅的状態にあったからです。梁川の田口半三郎は明治4年（1871）9月、蚕種の販路開拓のため、フランスへ向けて横浜港を出航し、翌年3月に帰国しています。半三郎には、その後も、フランスから蚕種取引の要請がありました（『梁川町史』3）。このような時代背景のもとで、伏黒村の彦右衛門をはじめとする伊達郡の蚕種製造人の蚕種紙は、横浜港から輸出されたと考えられています。

にじいろのだて（男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介）

『性自認（Gender Identity）』… 自分の性をどのように認識しているか示す概念。「心の性」ともいい、「身体の性」と「心の性」が一致せず、自身の身体に違和感を持つ人もいます。

